



「和顔愛語」が楽しい毎日を作ります

校長 馬場 誠

仙川に無数の鯉のぼりが、風をはらんで元気よく泳いでいます。緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会の皆さんが行っている「仙川鯉のぼり流し」。今年も小学校や保育園の子どもたち一人一人に絵付けをしてもらった鯉のぼりが、仙川を埋め尽くすほどたくさん掲げられました。八中からは美術部の生徒たちが色鮮やかな鯉のぼりを作り、さらに元気よく風にたなびいていました。

今年度が始まって一か月。本格的な授業も始まり、生徒たちはそれぞれの目標に向かって日々を過ごしています。生活指導の先生からは「挨拶は JOG (自分から/大きな声で/元気よく)」という話を聞き、率先して挨拶をする生徒も増えてきました。

全校朝礼では、私から「和顔愛語 (わけんあいご)」の話をしました。和顔とは優しい笑顔のこと、愛語は相手を思いやる言葉のことです。これは私の実家の柱に、短冊に書いて掛けてあった言葉なのですが、昔からいい言葉だなと思い、胸に刻まれてきました。人は辛いとき、悲しいとき、つい眉間にしわが寄って険しい顔になります。口から出る言葉も恨み言のような耳を覆いたくなる言葉ばかり。そんな人の近くには誰も寄ってこなくなります。反対に、笑顔でいる人の周りには人が集まってきます。笑顔が笑顔を呼び、全体が温かく包まれます。

「心理的安全性」が高いクラスには必ず「和顔愛語」の人がいるのではないだろうか、と生徒たちに話しました。「笑顔になってほしいならば、まず自分から笑顔になろう。優しい言葉がほしいなら、まず相手に優しい言葉をかけてあげよう。」生徒たちはしっかり聞いてくれたようです。これから様々な行事や経験を積みながら、互いに協力して、居心地のいい集団を作ってくれることを期待します。

さて、4月には保護者の皆様にご来校いただく機会がございました。13日の全校保護者会、そして22日の引取訓練(調布市防災教育の日)には多くの方々にご参加くださり、誠にありがとうございました。特に引取訓練には全校の半数以上の保護者の皆様がお越しくださり、意識の高さを感じました。ご協力に感謝いたします。今後も、危機管理を徹底し、生徒一人一人の命を守れるよう、安心・安全な体制作りを進めて参りますので、どうぞご協力の程お願いします。



離任式



4/28(金)の離任式に、3月に本校を去られた4人の先生にご来校いただきました。それぞれの先生には、代表生徒が感謝の気持ちを込めて、お礼の言葉と花束を渡しました。

佐藤前校長先生は、「今日の生徒の言葉が心に残りました。」「八中を離れて思うことがたくさんあります。八中は、いろんな可能性を伸ばせる学校だし、その要素がたくさんあります。八中で自分を見つめて自分の力をつけ、巣立ってほしいです。」と述べ、「さわやかで気持ちのいい学校を創ってってください。」と締めくくられました。

堀込先生からは、「八中で6年間、いろんな生徒との出会いが私を成長させてくれました。島では全校生徒29人の生徒たちとの生活やその他の環境の違いに不安を

感じながらも、新しい自分を見つけることができました。新しい環境は、だれでも不安を感じます。それでも勇気をもって踏み出し、自分の道を切り開いてほしい。」と話されました。

岸谷先生は、八中の生徒の優しさに触れ、「ただ、積極的に励ますだけでなく、友達の状況によって、そっとしてあげるなど真の優しさを知っている生徒も多いと感じました。サッカー部の活動では、生徒が全力を出して活動してくれました。それは素晴らしいことです。」と述べられました。

関先生は、「人と人との出会いを大切にしてほしいです。出会いは一生に一度。いろんなことを学び、感じ取って大事な宝物にして一生大切にしてください。」と述べられました。

最後に全校生徒からの盛大な拍手で離任式を終えました。離任された先生方、それぞれ転勤された学校でこれからもご活躍ください。

調布市防災教育の日

調布市は4月の第四土曜を「調布市防災教育の日」として、市内全小・中学校で防災教育に取り組んでいます。今年度も4月22日に実施しました。

1校時は、調布消防署員による煙体験を実施しました。昇降口近くに煙体験ハウスを設置し、煙が苦手な生徒以外、学年ごとに時間を決めて実施しました。

初めに消防署の方から火災による煙の恐ろしさや回避の仕方などの話を聞き、一人一人体験用の煙がこもった体験ハウスに入りました。体験した生徒からは、「何も見えずとても怖かった。」「低い姿勢の方が安全だと知りました。」といった感想を聞きました。

命の授業では、1学年は、「東日本大震災から10年 被災地の写真スタジオで働いていた人の経験を描いた漫画が教えてくれること」を教材として、自他の生命を尊重する態度を養いました。生徒の感想の中には、「命の大切さをあらためて感じた。」「命を落とした時、悲しむ人が大勢いることを知った。」など多くの感想がありました。

2学年は、「3.11を忘れない」の資料である被災した中学校2年生の作文「バイバイ」を使って生命の大切さについて考えました。

3年生は、東日本大震災で被災した中学3年生が、中学の卒業式で卒業生代表として「門出の言葉」を行った生徒の文章を資料とし、その当時の動画を見ながら道徳の授業を行いました。今年度は引き渡し訓練を実施し、生徒の半数以上の保護者の方に来校頂きました。ありがとうございました。

引取り訓練

